

インターンシップの始まり  
フィンドレー大学奨学生レポート（9月）

早いもので、フィンドレー市に来てから2ヶ月が経とうとしています。こちらの授業にも慣れ、また9月6日よりインターンシップも始まりました。今回はこれらについて、お伝えしていきたいと思います。

平日のスケジュールですが、午前中は大学で英語を学び、午後からは企業にてインターンシップを行っています。

	月	火	水	木	金
10:00~ 10:50	Composition	Communication Skills	Composition	Communication Skills	Composition
11:00~ 11:50		Reading		Reading	Reading
ランチ					
14:00~ 18:00	インターンシップ				

火・木曜日は75分授業の為、少し早く始まり終わるのも12時過ぎになります

授業は3種類あり、Compositionでは伝えやすい文章の書き方を、Communication Skillではプレゼンテーションとスピーキングを、Readingでは文章の効率的な読み方をそれぞれ学んでいます。クラスメイトには、中国、サウジアラビア、リビアなど様々な国の方がいてお互いの文化や母国語を教えあうこともあり、多くの刺激を受けている毎日です。しかし同時に、他の国の方とコミュニケーションをする難しさを知らされます。彼らの英語は、慣れ親しんだ母国語の発音が使われているため、知っている単語であっても私が今まで勉強した英語とは別のように聴こえるのです。また、これは私自身に対しても言えることで、自分の発音にどのような癖があるのか、相手が自分の言葉を理解出来なかった際どうすべきか、などを考える機会となりました。



クラスメイトと共に

インターンシップでは、自動車の部品を開発・製造しているニッシンブレーキ・オハイオ社にてクーラントのリサイクルシステムに携わっています。クーラントとは、部品を削り加工する際の冷却・潤滑用油のことで、私はこれから1年を通して、使用されたクーラントを効率良く回収し、再利用出来るシステムを作っていくこととなります。そして業務を通じて、機器・工具の扱い方、機械の実践的な知識、現場で働く方とのコミュニケーションを学ぶことがこの1年の目的です。

技術的な専門用語も含め、分からないことは常にあります。また、機械の動作などどのように言い表せば良いのか分からないこともあります。当初はうまく言えないために一人気負うこともありましたが、上司や周りの方の親切さにも助けられ、“間違ってもよいから聞く”という姿勢を改めて持てるようになったのではないかと感じています。



会社の方と共に



実習業務風景